

水産海洋地域研究集会

第11回 駿河湾・伊豆海嶺地域研究集会
—駿河湾内外の相互作用と湾内の流れ—

日 時：2019年3月8日（金） 13:00-17:00

場 所：東海大学海洋学部8号館8205教室

共 催：一般社団法人水産海洋学会，東海大学海洋学部，東海大海洋研究所

コンビナー：植原量行（東海大海洋）

プログラム

挨拶：大関芳沖（一般社団法人水産海洋学会会長）

13:00-13:05

開会挨拶：川上哲太郎（東海大学海洋学部長）

13:05-13:10

趣旨説明：植原量行（東海大海洋）

13:10-13:15

座長 高橋大介（東海大海洋）

1. 駿河湾・遠州灘海域における海洋環境の変化・・・瀬藤 聡（水産機構中央水研） 13:15-13:45
2. 黒潮大蛇行が本州太平洋沿岸域の漁海況に及ぼす影響
・・・日下 彰（水産機構中央水研）・御所豊穂（和歌山東牟婁振興局）・山根弘士（和歌山水試）・
久野正博（三重水研）・荒木克哉（愛知栽漁セ）・林凌太郎（愛知水試漁生研）・海野幸雄・
吉田 彰（静岡水技研）・樋田史郎（神奈川水技セ）・瀧口香穂・東元俊光（都島しよ総セ）・
大畑 聡（千葉水総研セ）・清水勇吾（水産機構中央水研） 13:45-14:15
3. OFESによる駿河湾の熱塩収支—湾口断面を通しての熱・塩フラックス
・・・植原量行・矢花武之（東海大海洋）・笹井義一（JAMSTEC） 14:15-14:45
4. 駿河湾の海面フラックスの変動・・・久保田雅久（東海大海洋研究所） 14:45-15:15

座長 日下 彰（水産機構中央水研）

5. 駿河湾フェリーのAIS データと ADCP による流向・流速の比較
・・・田中昭彦・勝間田高明・丹 佑之（東海大清水教養教育センター）・高島恭子・福田 巖・
仁木将人（東海大海洋） 15:30-16:00
6. 駿河湾フェリーADCPで観測した湾奥流動場
・・・勝間田高明（東海大清水教養教育センター）・仁木将人（東海大海洋）・田中昭彦・
丹 佑之（東海大清水教養教育センター）・高島恭子・福田 巖（東海大学海洋）・
杉本隆成（東大名誉教授） 16:00-16:30
7. 富士川からの河川出水の現地観測
・・・仁木将人（東海大海洋）・田中 潔（東大気海洋研）・石田明生（常葉大社会環境）・
饒田邦夫・高橋大介（東海大海洋）・勝間田高明（東海大清水教養教育センター）・
植原量行（東海大海洋）・田中昭彦・丹 佑之（東海大清水教養教育センター） 16:30-17:00

総合討論 17:00-17:30

座長 植原量行（東海大海洋）・田中 潔（東大気・海洋研）・石田明生（常葉大社会環境）

閉会挨拶：久保田雅久（東海大海洋研究所）

開催趣旨：駿河湾の特産品であるサクラエビは、3月下旬から6月上旬の春漁と10月下旬から12月下旬の秋漁によって漁獲される。近年、駿河湾産サクラエビの漁獲量は下降が続いているが（静岡県水産技術研究所，H30サクラエビ.ppt，静岡県HP），2018年春漁は、過去30年で最低となる記録的な不漁となった。静岡県水産技術研究所は、漁獲圧の状況を注意深く監視し、さらなる資源回復措置を図る必要があると注意を呼びかけている。今年の記録的な不漁となった原因は現在のところ不明であるが、サクラエビ資源量変動の環境要因として、産卵期における水温が重要であるとの報告がある（Bishop et al., 1989）。したがって、水産海洋学の立場から、これまでの駿河湾における海洋構造の基本場（水温場・塩分場そして流れ場）やそれがどのように変化してきたのか、そして、現在どのような状況にあるのかを議論することは非常に重要である。特に、2017年秋以降、駿河湾の外では黒潮が12年ぶりの大蛇行流路となっており、外洋の影響が湾内に波及している（黒潮系水の流入等）ことが推測される。本研究集会では、サクラエビやシラスなど沿岸漁業に大きな影響を与える流動等の物理環境を中心に、観測、数値モデルの結果等を用いて、駿河湾と外洋との相互作用と湾内の流れ場に焦点を当て、情報を共有し、駿河湾とその周辺海域における海況の理解を目指したい。